

住宅メーカー 職場シミュレーション

テキストと新学習指導要領および各教科書との関連

この資料は、「住宅メーカー職場シミュレーション」テキストの各設問（ミッション）のねらいが、中学社会科「公民」の新学習指導要領および各教科書のどの部分の学習内容に対応したものであるかを表にしたものです。なお一部の設問（ミッション）は、学習内容への誘導部分などであるため対応表は空白になっています。

中学社会「公民」教科書一覧（平成17年3月30日 検定済）

【以下、各行の先頭は教科書対応を表す省略記号です。】

東：東京書籍「新編 新しい社会 公民」（発行：平成22年2月10日）

帝：帝国書院「社会科 中学生の公民 地球市民をめざして 初訂版」（発行：平成22年1月20日）

清：清水書院「新中学校公民 改訂版 日本の社会と世界」（発行：平成22年2月15日 5版）

教：教育出版「中学社会 公民 とともに生きる」（発行：平成22年1月20日）

駄：大阪書籍（日本文教出版） 中学社会 公民的分野」（発行：平成22年2月9日）

日：日本文教出版「中学生の社会科・公民 現代の社会」（発行：平成22年1月15日）

曙：日本書籍新社「わたしたちの中学社会 公民的分野」（発行：平成22年1月25日）

扶：扶桑社「中学社会 新訂版 新しい公民教科書」（発行：平成22年2月15日）

テキスト		新学習指導要領の内容		教科書対応ページ
NO	ミッション	学習テーマ・ねらい	<大項目 (2) 私たちと経済 / 中項目 ア 市場の働きと経済>	
1- ① p4～5	①	「経済活動の意義・生産（手段）・交換」	「身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させる」 ◇経済活動が、一般的に人々が求める財やサービスを生産し、これらを消費することで生活を成り立たせている人間の活動であり、経済活動の意義とは、人間の生活の維持・向上にあり、経済は生活のための手段にほかならないことを、生徒の身近な経済生活である消費を中心に理解させる。	帝：p35～36 清：p100～101 教：p90～91 駄：p104～105 日：p96 扶：p28～29
		◇経済活動が人間の生活の維持と向上を目的としていることを理解する。 ◇経済活動が生活のための手段であることを理解する。		
	②～④	◇物々交換 ◇分業による生産力の増大生産性の向上 ◇交換のメリット		
1- ② p6～7	①～⑤	「物々交換から市場へ」	「現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させる」 ◇家計と企業との関連に着目しながら、人々が求める財やサービスを作り出す生産が、家計によって提供される労働やその他の資源を投入して企業を中心に行われていることについて理解させる。	東：p116 帝：p48, 52 教：p100 駄：p116～117 日：p104 曙：p50 扶：p36
		◇生産の三要素 ◇情報・技術 ◇流通		
2- ① p8～9	①～④	「分業と交換」	「現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させる」 ◇家計と企業との関連に着目しながら、人々が求める財やサービスを作り出す生産が、家計によって提供される労働やその他の資源を投入して企業を中心に行われていることについて理解させる。	東：p116 帝：p50 清：p101 駄：p116 曙：p44 扶：p28
		◇社会分業 ◇貨幣による交換		

テキスト		新学習指導要領の内容		教科書対応ページ
NO	ミッション	学習テーマ・ねらい	<大項目 (2) 私たちと経済 / 中項目 ア 市場の働きと経済>	
2-② p10～11	①	「限られた条件の下での選択」 ◇社会分業	「現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させる」 ◇家計と企業との関連に着目しながら、人々が求める財やサービスを作り出す生産が、家計によって提供される労働やその他の資源を投入して企業を中心に行われていることについて理解させる。	東：p116 帝：p50 清：p101 昴：p116 曙：p44 扶：p28
		②～⑤ ◇希少性 ◇選択 ◇トレードオフ ◇合理的な意思決定 ◇責任	「価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる」 ◇身近で具体的な事例を取り上げ、個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通じて行われるという点に着目させるとともに、市場における価格の決め方や資源の配分について理解させる。(内容の取扱い) 一般に、人間の欲求は多様で無限に近いものであるのに対し、財やサービスを生み出すための資源は有限であり、生み出される財やサービスもまた有限である。そこで、所得、時間、土地、情報などの限られた条件の下において、その価格を考慮しつつ選択を行うという経済活動がなされるのである。 したがってここでは、市場経済において個人や企業は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択すること、また、価格には、何をどれだけ生産・消費するかにかかわって、人的・物質的資源を効率よく配分する働きがあることなど、市場経済の基本的な考え方を具体的な事例を取り上げて理解させることを意味している。 なお、市場経済においてこれらの選択を行うに当たっては、あるものをより多く生産・消費するときには、他のものを少なく生産・消費しなければならないことがあることに気付かせることが必要である。	東：p108 帝：p37 清：p100～101 曙：p97 扶：p43
2-③ p12～13	①	「限られた条件の下での選択・雇用と労働の条件・政府の役割」 ◇勤労の権利と義務 ◇職業選択の自由 ◇労働条件 ◇労働組合 ◇労働基準法	「社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考えさせる」 ◇職業の意義や雇用などについては、それが家計を維持・向上させるだけでなく、個人の個性を生かすとともに、個人と社会とを結び付け、社会的分業の一部を担うことによって社会に貢献し、社会生活を支えるという意義があることについて考えさせることを意味している。 また、家計を維持・向上させる上で、雇用と労働条件の改善が重要であることについて気付かせ、産業構造の変化や就業形態の変化、内容の(1)のアの「現代日本の特色」についての学習などと関連付けながら考えさせることが大切である。その際、勤労が国民の権利であり義務であることや職業選択の自由が保障されていることと関連付けて考えさせるとともに、正しい勤労観や職業観の基礎を培うことが必要である。 また、労働条件の維持・改善及び経済的地位の向上を図ることを主たる目的として労働者が自主的に組織する労働組合の意義や労働基準法が労働者が人たるに値する生活を営むための最低の基準を定め、労働者を保護しようとしていることと関連付けて考えさせることが必要である。	東：p122～123 帝：p64～67 清：p136～139 教：p116～117 昴：p128～131 日：p106～107 曙：p62～65 扶：p48～49
		②～⑤ ◇希少性 ◇選択 ◇トレードオフ ◇合理的な意思決定 ◇責任	「価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる」 ◇身近で具体的な事例を取り上げ、個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通じて行われるという点に着目させるとともに、市場における価格の決め方や資源の配分について理解させる。(内容の取扱い)	東：p108 帝：p37 清：p100～101 曙：p97 扶：p43

テキスト		新学習指導要領の内容		教科書対応ページ
NO	ミッション	学習テーマ・ねらい	<大項目 (2) 私たちと経済 / 中項目 ア 市場の働きと経済>	
p14～15	⑥～⑦	◇希少性 ◇選択 ◇トレードオフ ◇合理的な意思決定 ◇責任	「価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる」 ◇身近で具体的な事例を取り上げ、個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通じて行われるという点に着目させるとともに、市場における価格の決め方や資源の配分について理解させる。(内容の取扱い) 一般に、人間の欲求は多様で無限に近いものであるのに対し、財やサービスを生み出すための資源は有限であり、生み出される財やサービスもまた有限である。そこで、所得、時間、土地、情報などの限られた条件の下において、その価格を考慮しつつ選択を行うという経済活動がなされるのである。 したがってここでは、市場経済において個人や企業は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択すること、また、価格には、何をどれだけ生産・消費するかにかかわって、人的・物質的資源を効率よく配分する働きがあることなど、市場経済の基本的な考え方を具体的な事例を取り上げて理解させることを意味している。 なお、市場経済においてこれらの選択を行うに当たっては、あるものをより多く生産・消費するときには、他のものを少なく生産・消費しなければならないことがあることに気付かせることが必要である。	東：p108 帝：p37 清：p100～101 曙：p97 扶：p43
		⑧～⑩ ◇勤労の権利と義務 ◇職業選択の自由 ◇労働条件 ◇労働組合 ◇労働基準法	「社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考えさせる」 ◇職業の意義や雇用などについては、それが家計を維持・向上させるだけでなく、個人の個性を生かすとともに、個人と社会とを結び付け、社会的分業の一部を担うことによって社会に貢献し、社会生活を支えるという意義があることについて考えさせることを意味している。 また、家計を維持・向上させる上で、雇用と労働条件の改善が重要であることについて気付かせ、産業構造の変化や就業形態の変化、内容の(1)のアの「現代日本の特色」についての学習などと関連付けながら考えさせることが大切である。その際、勤労が国民の権利であり義務であることや職業選択の自由が保障されていることと関連付けて考えさせるとともに、正しい勤労観や職業観の基礎を培うことが必要である。 また、労働条件の維持・改善及び経済的地位の向上を図ることを主たる目的として労働者が自主的に組織する労働組合の意義や労働基準法が労働者が人たるに値する生活を営むための最低の基準を定め、労働者を保護しようとしていることと関連付けて考えさせることが必要である。	東：p122～123 帝：p64～67 清：p136～139 教：p116～117 昴：p128～131 日：p106～107 曙：p62～65 扶：p48～49

テキスト		新学習指導要領の内容		教科書対応ページ
NO	ミッション	学習テーマ・ねらい	<大項目 (2) 私たちと経済 / 中項目 ア 市場の働きと経済>	
2-④ p16～17	①～②	「価格の働き・企業の役割と社会的責任」		
		◇勤務形態 ◇広告・宣伝		
		◇間接金融 ◇ローン ◇金融の役割 ◇金融機関	「金融などの仕組みや働きを理解させる」 ◇家計の貯蓄などが企業の生産活動や人々の生活の資金などとして円滑に循環するために、金融機関が仲介する間接金融と、株式や債券などを発行して直接資金を集める直接金融を扱い、金融の仕組みや働きを理解させる。	東：p120～121 帝：p54～55 清：p116～117 教：p104～105 日：p124～126 日：p112～115 曙：p54～56 扶：p44～45
⑤～⑥	◇企業の役割 ◇企業の社会的責任	「社会における企業の役割と責任について考えさせる」 ◇企業は市場において、公正な経済活動を行い、消費者、株主や従業員の利益を増進させる役割を担っていること、さらに、生産活動以外に社会的に貢献していることについて考えさせる。	東：p115 帝：p50, 68～69 清：p115 教：p103 扶：p39	
2-⑤ p18～19	①～②	「企業を拡大する資金調達（金融の働き）」	「金融などの仕組みや働きを理解させる」 ◇家計の貯蓄などが企業の生産活動や人々の生活の資金などとして円滑に循環するために、金融機関が仲介する間接金融と、株式や債券などを発行して直接資金を集める直接金融を扱い、金融の仕組みや働きを理解させる。	東：p115 帝：p52～53 清：p114～115 教：p102～103 日：p118～119 日：p109 曙：p52～53 扶：p38～39
		◇企業 ◇株式会社 ◇株主		
	③	◇企業の拡大 ◇希少性 ◇選択 ◇トレードオフ ◇合理的な意志決定 ◇責任	「価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる」 ◇身近で具体的な事例を取り上げ、個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通じて行われるという点に着目させるとともに、市場における価格の決め方や資源の配分について理解させる。（内容の取扱い） 一般に、人間の欲求は多様で無限に近いものであるのに対し、財やサービスを生み出すための資源は有限であり、生み出される財やサービスもまた有限である。そこで、所得、時間、土地、情報などの限られた条件の下において、その価格を考慮しつつ選択を行うという経済活動がなされるのである。 したがってここでは、市場経済において個人や企業は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択すること、また、価格には、何をどれだけ生産・消費するかにかかわって、人的・物質的資源を効率よく配分する働きがあることなど、市場経済の基本的な考え方を具体的な事例を取り上げて理解させることを意味している。 なお、市場経済においてこれらの選択を行うに当たっては、あるものをより多く生産・消費するときには、他のものを少なく生産・消費しなければならないことがあることに気付かせることが必要である。	東：p108 帝：p37 清：p100～101 教：p92 曙：p97 扶：p43